

三重県「災害廃棄物処理スペシャリスト人材育成講座」傍聴レポート

三重県では平成 28 年度、県内の市町及び県の職員を対象とした災害廃棄物処理スペシャリスト人材育成講座をスタートさせています。今回、その一部を傍聴させていただきましたので、ご報告します。

1. 講座の目的

三重県では昨年度もセミナーや研修会を積極的に開催し、市町の災害廃棄物処理計画策定を支援してきました。今年度は、災害時に廃棄物処理の核となる人材を県内の各ブロックで確保するため、市町及び県の職員を対象にしたこの講座を企画し、受講者のスキルアップによって県全体としての災害対応力を高めようというものです。

本講座を受講した人材には、災害時に所属長を補佐して廃棄物処理についての指揮や調整を行うこと、災害の規模によっては現場での実作業も担当できること等を期待し、そのために必要な法的知識、技術的知識、判断力を習得してもらうことが本講座の目的とされています。

2. 講座全体のスケジュール

今回の講座は、大きく 3 つのパートに分かれています（下表）。1 つのパートだけでも 3 日間の期間があり、自治体が実施する研修としてはかなりボリュームのある内容です。企画、実施には廃棄物コンサルタント会社の協力を得ています。主催者である県だけでなく、職員を研修に派遣する市町にも「スペシャリスト人材を育てるべし！」という意気込みが感じられます。

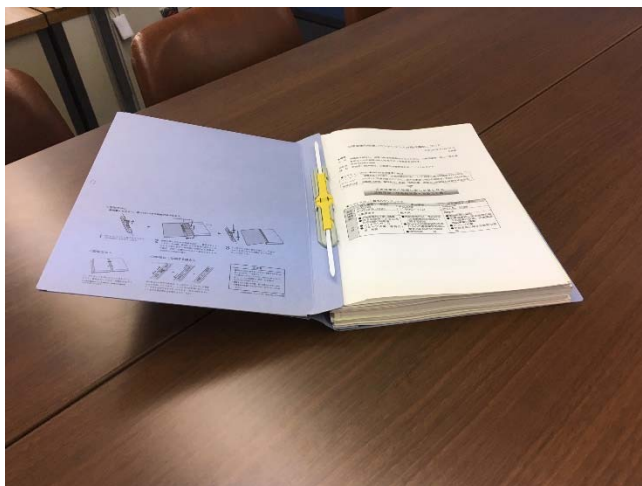
スペシャリスト人材育成講座のスケジュール

	時期	場所	内容
机上演習Ⅰ (前期)	平成 28 年 10月18日～ 20日	三重県 津市	✓ 防災&災害廃棄物の基礎的な講義 ✓ 水害を経験した県内自治体職員からの報告 ✓ 推計や仮置場の設置・運営に関する講義 ✓ ワークショップ など
実地研修	平成 28 年 11月9日～ 11日	熊本県	✓ 現地被害状況や復旧対応に関する説明 ✓ 処理実務担当者からの取組説明 ✓ 現地視察 など
机上演習Ⅱ (後期)	平成 29 年 2月上旬の 3 日間	県内 (調整中)	✓ 実地研修の報告 ✓ 災害廃棄物処理計画、実行計画の講義 ✓ 災害関係補助事業の講義 ✓ グループ作業 など

3. 机上演習Ⅰ（前期）の内容

今回傍聴させていただいたのは、最初のパートである「机上演習Ⅰ（前期）」の2日目午後から3日目にかけてです。エントリーしている市町職員は16名、県職員は4名、当日全員参加していました。

なお、参加者全員には各講義に必要な資料が綴じこまれたファイルが配布されていました。



① 1日目

- 災害廃棄物に関するミニクイズ
- 災害対応（防災）に関する講義（県の防災部局から）
- 三重県における災害廃棄物対策の取組（県の廃棄物部局から）

（1日目は傍聴していませんが、概ね以下のような内容とお伺いしました）

② 2日目

2日目の午前中は、廃棄物コンサルタント会社から災害廃棄物処理に関する基礎講義が、環境省からは廃棄物や災害に関する法制度の講義が行われました。

午後には、2011年に発災した台風12号による水害での廃棄物処理について、紀宝町の担当者から報告がありました。発災直後の町の様子、住宅前に出された大量の廃棄物、仮置場の様子等、当時の写真を数多く用いて報告され、参加者は熱心に聞き入っていました。

午後の後半は、名古屋大学の平山修久准教授より「わがごと」とする災害廃棄物対策」と題した講義と演習がありました。

講義では、地震や水害等、過去の様々な災害時の街の様子や廃棄物の状況について、とにかくたくさんの写真や映像を見ることで、発災時のイメージを参加者間で共有しました。



その後、災害廃棄物処理の現場で判断が必要とされる様々な課題が平山准教授から投げかけられ、その対応を参加者がグループに分かれて話し合うという演習が行われました。みなさん真剣に、かつ楽しそうに議論されているのが印象的でした。

③ 3日目

3日目の午前中は、国立環境研究所 資源循環・廃棄物研究センターの多島研究員による講義でした。内容は災害廃棄物の推計について（前半）と、仮置場の設置・管理・運営について（後半）でした。推計の講義では最後に水害時を想定した演習問題が出され、参加者が実際に廃棄物量の推計を行い、災害フェーズに応じた推計方法や推計結果の解釈について理解を深めていました。



3日目の午後は、この3日間の振り返りもかねて、参加者がグループに分かれて議論を行うワークショップが開催されました。

三重県で断層地震が起きたと想定し、発災直後から7日目までの間で、市町の廃棄物部局がどのような業務を行わなければならないかを付箋に書き出し、それを模造紙に張り付けながらグループ内で整理を行うという内容でした。

どのグループも活発な議論で盛り上がり、多くの人が立ち上がって作業を進めていました。



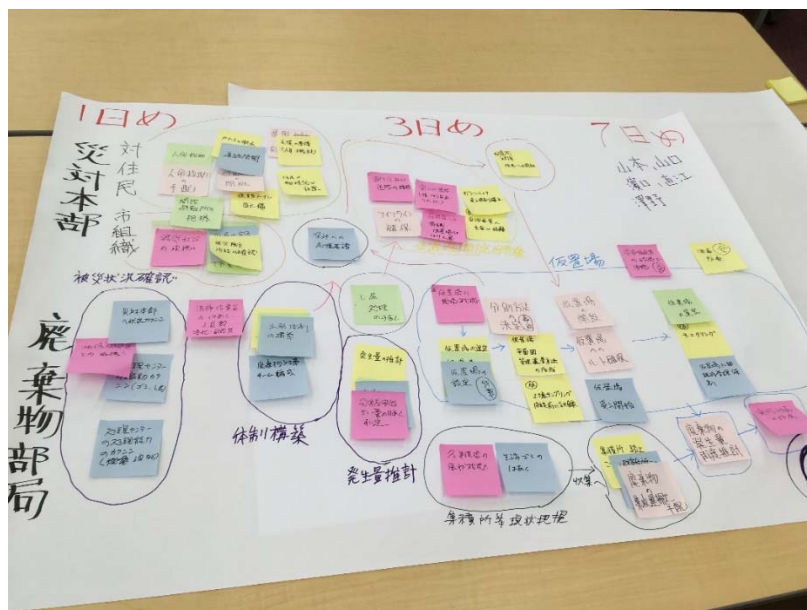
グループ作業の後には、各グループ10分ずつの発表&質疑が行われました。



グループ発表では、「議論がとても楽しかった、有意義だった」という感想が多く聞かれましたが、一方で今回のワークショップを通して「思ったより、初動期だけでもやるべきことが多いと感じた」という感想も多く、今後それぞれの職場において更なる検討が必要だと認識が高まっているようでした。



ワークショップの成果物①



ワークショップの成果物②

4. 今後に向けて

今回、県内の市町からは、廃棄物分野での経験年数が長い方、これから経験を積んでいく若い方の両方が参加されていました。今回は研修の第一フェーズということで、災害廃棄物に関する基本的な内容がメインでしたので、経験の少ない方でも段階的にステップアップできたのではないかと思います。また、研修には座学だけでなく参加型の講義がバランスよく組み合わせられており、参加者が飽きることなく受講できるよう工夫がされていました。今回の参加者は20人でしたので、3日間の研修を通して密な人的ネットワークが構築されていたのも印象的でした。

今回の研修で学んだことを踏まえ、来月には熊本県での実地研修があるということですので、皆さんこれまでとは違う視点で、それぞれの課題意識を持ちながら災害廃棄物処理の現場をみられるのではないのでしょうか。

このような研修を受講した人材を、平時及び災害時に県内でどのように活用していくのか、今後は育てた人材の活用方法についても検討が進められるとよいのではないかと感じました。

レポート特派員

公益財団法人廃棄物・3R研究財団 森朋子